

俳句 大津俳句会

鳥声にふくらむ蕾数椿やぶつばき

井芹眞一郎

曇る日も堪えてをりたる冬薔薇そうび

岩崎由美子

漣なみだにまかせてをりぬ浮寝鴨

岡崎 浩子

小春日のシニアの集ふ待合所

岡村伊津子

噓くしやみして集中力の途切れたり

佐賀 久子

湖面より一気に飛翔鴨の群

佐澤 俊子

俳句 つのはな句会

そそり立つ冬の根子岳凛りんとして

塚本 洋子

モーゼ来よ瓦礫の山に 初菫

榮田しのぶ

新年や平和を願ひ写経する

村田 健二

今日の春 積んでは崩す平和の塔

志賀 孝子

富くじの売り場賑わう飾り松

田上 公代

我が邪心雪の神樹に見透かさる

木庭 杏子

セミコロン打って見上げる初御空

上杉 波

反戦歌七草粥に加えおく

矢嶋 道子

今日在りて松の緑を活けている

梅木トキエ

短歌 大津短歌会

暗雲に月を待てども顔見せずあきらめき
れず佇みており

小平 善行

紅葉なす山の斜なだりを行く汽車のガタリコ
トコト鉄橋渡る

坂本 杲子

山門のカエデ大樹は落葉し固き芽残し冬
へ入り行く

豊岡ミツル

山超えて木霊となりてひびき来る今宵の
里の祭りの太鼓

吉永 恵子

五島灘飛ぶが如くに奔る船 刎はねを広げ
て飛魚の散る

鞍 岳志

敬老会長く続けた証あかしの書展示も出来て思
ことなし

菅野 静